

令和5年度 全国学力・学習状況調査 結果の分析から

子どもたちに育てたい「学びの姿」について

真鶴町教育委員会

真鶴町では町の子どもたちの学習の理解度や学習に対する意識、生活習慣等（総じて「学力」）を把握し、子どもたちへの教育指導の在り方や学習状況の改善等に役立てることを目的として、全国学力・学習状況調査の結果の分析を実施しております。

そこで、今年度も真鶴町教育委員会では、まなづる小学校・真鶴中学校とともに検証委員会を設置し、標記調査を中心に真鶴町の子どもたちの学習状況について分析をしました。その分析から見えてきた真鶴の子どもたちの良さと課題、課題を改善するための手立て等を保護者の皆様にお伝えいたします。

令和5年度全国学力・学習状況調査の分析から見えた、

真鶴の子どもたちの特徴的な良さと課題について

調査実施日：令和5年4月18日 調査対象学年：小学校 6年生
中学校 3年生

今年度の調査で「良さ」といえるところ

小学校・中学校共通	
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none">・「いじめは、どんなことがあってもいけない」と考えています。・読書の習慣が身についてきています。・地域や社会をよくするために何かしてみたいと考えています。・友達関係に満足している割合が高いです。・先生によいところを認められていると感じています。
小学校	
国語	<ul style="list-style-type: none">・話や文章の中心となる語や文を捉え、内容を理解することができていました。・「読むこと」の領域の問題がよくできていました。
算数	<ul style="list-style-type: none">・「数と計算」、「図形」の領域における「知識・技能」に関わる問題がよくできていました。

質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよいところを自分で捉えている割合が高いです。 ・ICT 機器を授業で活用する割合が高く、全ての児童が学びに効果的だと感じています。 ・家庭学習を計画的に行っている割合が高いです。
中学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の領域における選択式の問題がよくできていました。 ・「話すこと・聞くこと」の領域における選択式の問題がよくできていました。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な計算技能が身についています。 ・「数と式」、「関数」の領域における「知識・技能」に関わる問題がよくできていました。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」の領域における「知識・技能」に関わる問題ができていました。 ・聞いたことについて、考えとその理由を述べ合う「話すこと」の領域の問題がよくできていました。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えていることや、感じていること等をわかりやすく相手に伝わるように発表している生徒の割合が高いです。

今年度の特徴的な課題

小学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や敬語を適切に使うこと。 ・複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり、書き表し方を工夫したりすること。 ・指定された条件（字数、与えられた資料から根拠を示す、指定された語句を使用する）に合わせて文章を書くこと。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の方法や理由を説明すること。 ・問題文の長い文章問題を正しく読み取って解くこと。 ・問題の後半にかけて無回答率が上がっている。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ・決まった時間に就寝している割合が低い。

中学校	
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文脈に即して漢字を正しく書くこと。 ・長い文章を読んで内容を理解すること。 ・自分の考えの根拠を明確にして書くことや、読み手の立場に立って文章を整えること。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文の長い文章問題を正しく読み取って解くこと。 ・図形の性質を論理的に考えて説明すること。 ・証明問題や自分の考えを数学的な表現を用いて説明すること。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・英会話から情報を正確に聞き取ること。 ・英文から情報を正確に読み取ったり、概要を捉えたりすること。 ・自分の考えを書いたり、話したりすること。 ・英語の有用性を感じていない生徒の割合が高い。
質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> ・決まった時間に就寝・起床している割合が低い。 ・計画的に家庭学習に取り組んでいる生徒が少ない。

☆学力向上に向けた各学校での取組☆

分析結果を受け、各校で次のような取組を考え実施します。



小・中学校でつなげる

共通の取組

○子どもたちが主体的に学ぶ授業にするため、校内研究の充実を図ります。

※「校内研究」とは…教職員が、よりよい授業を実践するために、各自の授業力の向上や、全般的な教育活動の改善を目的に、相互で実践を提案・分析し合う研究会のことです。

(小学校での取組)

- ・児童が「読みの視点」を獲得し、「自分は読めている」「もっと読みたい」「読むことって楽しい」と思える授業づくりを通して、文章を読んで自ら「知りたい」と主体的に粘り強く取り組む児童の育成をめざした『授業研究』を行います。

(中学校での取組)

- ・生徒がわからないことを「わからない」と言える環境を大切にします。また、個々の生徒への支援をクラス全体に広げることで、どの生徒にとっても分かりやすい授業を実現し、学びを豊かにしていくという「授業のユニバーサルデザイン」の考え方を大切にした授業改善に取り組みます。
- ・生徒が学習を見通し、自らの学びを調整したり、自己の変容をつかんだりすることができる「振り返り」を大切にし、学ぶことの意義や楽しさを感じ取り、自ら粘り強く学び続ける生徒の育成をめざした『授業研究』を行います。

○読書活動を推進します。(家庭との協力)

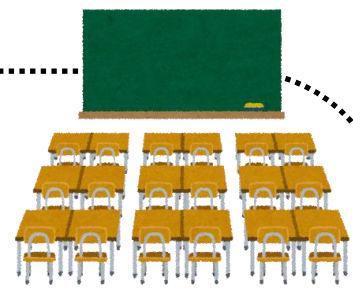
(小学校での取組)

- ・朝の読書タイムや読み聞かせを定期的に行い、本への出会いを設定します。そのうえで、読書週間を設定したり、週末に家庭で本を読んできてくる「週末読書」を行ったりすることで、家庭での読書習慣の確立も見据えた取組を児童の発達段階に応じて行っていきます。
- ・学校図書館や町立図書館を計画的に利活用し、児童の主体的・意欲的な学習活動や読書活動の充実を図っていきます。

(中学校での取組)

- ・朝読書(MT)の時間をさらに充実させるため、生徒が自分の興味に合った本と出会えるような書籍の紹介など環境の整備を行います。
- ・家庭学習の計画書である「マナログ」を活用して、主体的な家庭学習を促すとともに、家庭でも読書をする時間が増えるように指導していきます。

各学校の独自の取組



まなづる小学校

○文章を粘り強く読む児童を育成します。

- ・長い文章（設問を含む）でもあきらめないで最後まで読むことを指導します。
- また、意味調べを行うことで語彙を増やし、場面を豊かに想像できる子を育成します。

○既習事項（アイテム）を活用する力の向上を図ります。

- ・児童の既習事項の定着状況を確認し、既習事項との違いから考えることができる学習課題や、既習事項を活用し考えることができる学習課題を設定します。
- ・既習事項を活用して考えるための「視点」を明確にすることで、児童が「読んでみたい」「といてみたい」「考えてみたい」という思いをもつ授業づくりを大切にします。
- ・自分の気持ちや考え、分かったことなどを文章で表現する活動を大切にします。

真鶴中学校

○「書く力」「読み解く力」を伸ばします。

- ・「書く」ことの習慣化を図ります。また、書いた文章の感想や意見を友達と伝え合うことで、新たな表現に気づいたり、自分の文章の課題やよさを見つけたりできるようにします。
- ・語句に着目させ、文脈から意味を推測したり、情報を比較し、関連付けて整理したりする学習活動を取り入れるなど、生徒が語彙を増やす方法を身に付けられるような指導を行います。

○基礎的知識の確実な習得ができるようにします。

- ・数学では、毎授業で1～5問程度の計算問題を行い、基本的な計算問題を素早く正確に解けるようにします。

○自ら英語を学ぼうとする生徒を育てます。

- ・生徒自身が到達すべき目標を自覚できるように見通しをもたせ、自らの成長を実感し、励みとできるような指導を計画的に行います。
- ・授業だけでなく、学校のあらゆる場面で英語を使ったり、英語に触れたりする機会を増やします。また、デジタル教科書などを利用し、家庭でも英語を聞いたり読んだりするよう促します。

真鶴町教育委員会の取組

○各学校の学力向上に向けた取り組みを支援します

- ・支援員・専科教員などの人的支援や、ICT機器などの物的支援を今後とも継続します。
（他市町に比べ、児童生徒の比率に対し、多くの支援員が児童・生徒の支援に入っています。）
- ・幼（保）小中12年間の学びと育ちを見据え、発達段階や教育上の課題に応じた、一貫性のある系統的かつ継続的な学習指導や生徒指導を、幼（保）小中一貫教育を手法として進めていきます。

～子どもたちの「学ぶ力」を育てるために、

学校と家庭が協力して取り組みたいこと～

～特に大切にしてほしいこと！～

- ☆ 子どもたちと対話する時間を多くもちましょう。その日の出来事、学校で学んだこと、将来の夢について等、子どもたちの思いを受け止め、共に過ごす時間をつくり、対話をしてください。
- ☆ 家庭学習の習慣化に力を入れましょう。先生や保護者、子どもたちとよく相談をして、できることからステップアップして進めていきましょう。
※「家庭学習がんばり週間（小学校）」や「マナログ（中学校）」など、子どもたちが自分の力で家庭学習を行えることをめざした取組は続きます。
- ☆ 本に親しむ環境（時間・場）をつくりましょう。本の読み聞かせや、家族で共に読書をするなど、本を通してのコミュニケーションを図ってください。
- 結果よりも、子どもたちが努力していること、頑張っていることの過程を大いに認め、大いに褒めましょう。
- 各家庭に配付した「みんなで守ろう 携帯・スマホ・ゲーム機等のきまり」を使って、ゲーム、スマートフォン等の使い方や使う時間などのルールについて、さらにスマートフォン等についてはフィルタリングの措置について、保護者と子どもとで相談しましょう。

※ ☆印は「重点項目」

◎さらに以下のことにも取り組んでいきましょう。

～心身共に健康的な生活習慣を身に付ける～

- ・ 「早寝、早起き、朝ごはん」を心がけ、子どもたちの生活リズムを整えましょう。
- ・ 読書の時間（「読み聞かせ」を含む）をつくりましょう。
- ・ 体を動かして遊ぶ、スポーツに親しむことができるような機会をつくり、子どもたちに運動する楽しさを味わわせましょう。
- ・ あいさつを気持ちよくできるよう、大人から進んであいさつをしましょう。

～自尊感情（自分を大切に思う心）を高める～

- ・ 子ども「その子らしさ」を認めていきましょう。
- ・ 子どもたち自身が「自分で頑張れること」について考える機会をつくりましょう。
- ・ 子どもとの共有体験（共に過ごす、活動する）の機会を多くもちましょう。
（一緒にいる安心感が子どもの心を育みます）
- ・ 子どもが「自分自身で決定（自己決定）」する機会を大切にしましょう。

～規範意識（きまりやマナーを守ろうとする心）を育てる～

- ・ きまりや約束を守ろうとする子どもの姿を認め、大いに褒めましょう。
- ・ 人と人のつながりが感じられる体験を増やし、子どもたちが感じたことを受け止めましょう。